

総合文化誌

# くまもと KUMAMOTO

NPO法人 くまもと文化振興会



季刊  
No. 9

2014年12月

特集1

木下順二生誕100年

特集2

トップは女性(2)

## やぶさめ少年塾

—絶やしてはならない武田流流鏑馬—

NPO 法人武田流流鏑馬保存会

顧問 出田 秀尚

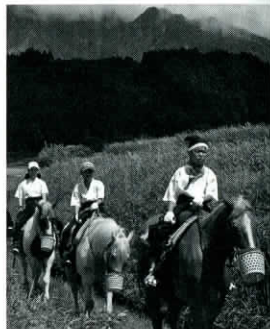
熊本には日本古来の教義が、形として表現された貴重な文化が継承されている。

それは武田流流鏑馬である。流鏑馬は一二〇間の馬場を駆ける馬上から、次々と矢を射て行く騎射として知られているが、流鏑馬の本質は神事なのである。騎射に先立って神前において天長地久式を行なうが、これは我が武田流だけである。射手頭が馬に跨り、イザナギ・イザナミの国生みの神話に従った五行の乗法で、八の字を描いて歩き、静止した馬上で重藤の弓に鏑矢を番えて、天と地と水平の三点を射る仕草をする。これは天照大神の御心である、と伝書に記されている。この間射手は口伝の呪文を唱える。神武天皇の建国の精神、万民息災・五穀豊穰・天下泰平を祈る呪文である。その後、三名一組による騎射が行なわれ、矢の当りが多いほど祈願が叶えら

れるというのである。

流鏑馬は飛鳥時代の欽明天皇による創造で、皇室に口伝されていた教義が、形として表現されたものである。古事記が編纂された約二〇〇年前のことである。しばらくは朝廷の儀式として行なわれていたが、平安時代になって清和天皇の皇子・貞純親王が、武田流を起こして武家の手に移された。以後、源家を七代、武田家を二四代、細川家を三代、家臣の竹原家を一三代、計四七代を一子相伝のもと継承されてきた。細川家の肥後入国に伴って、正統の流鏑馬が熊本にあるわけである。

天長地久式のとされる天には先祖、過去がある。先祖を畏れ敬い、父母・年長者を尊重することは人を謙虚にし、自らが成長することになる。地なる子孫を思い、未来を大切にすれば創造的な力が発揮され、忍耐強く努力できる。



塾生馬術練習



木馬練習



天長地久式

人は過去と未来の悠久の時の流れの中の一瞬の現在にしか、生きていないのである。水平線上には森羅万象があり、人は自然界の一員として共存して従順に生きねばならない、と天照大神の御心をかりて石器時代・縄文時代に生きた人の教義を示すものと解釈される。神武天皇の建国の精神「万民息災は、人は災いに遭った時、共に息づき慰め合い共感しよう、五穀豊穰を目指し勤勉に協力して働こう、お互いは争いをせずに天下泰平に生きよう」ということで、いわば神武天皇の弥生時代に生きた人達の生活の規範であったと考えられる。人類にとってこのように貴重な流鏑馬を次世代に継承するため、私達は平成五年にやぶさめ少年塾を開講した。小学校四年生から中学校三年生までの男女を、年間に一五名ほど集め、隔週の日曜日、弓道と馬術と座学で流鏑馬を教え

ている。子供達は皆興味を持っている。子供達は皆興味を持って励み、参観の父兄も熱心だ。塾歌を岩代浩一氏が作曲していただいた。浩一氏の父君・吉親氏は、竹原正文先代師範の親友で、私が入門した昭和三八年頃、流鏑馬の演武を手伝っておられた。作詞は私となつてはいるが、私が並べたキーワードを浩一氏が美しい詩的表現にしてくれた。塾歌には縄文の心、弥生の規範が込められている。天地人は人の心の軸である。これを基本に考えれば、物事を判断するに当たって、人はぶれることが無い。万民息災・五穀豊穰・天下泰平は個人を幸せに、集団を平和にするための規範である。熊本に伝えられる貴重な武田流流鏑馬を絶やしてはならない。保存会会員一同は、地上から戦争が消え、人類が生存する限り、平和であることを願って励んでいる。

(いでた ひでなを)

たこ焼きの **もってかえっ亭**

イオンモール宇城店  
イオンモール熊本店

医療法人 永田会

**東熊本病院**

上益城郡益城町惣領1522-1

TEL 096 (286) 2525/FAX 096 (286) 2543